

# 楽しさと充実感のある授業をめざした課題解決のための指導法

## ——— 楽しさを求める体育学習 ———

足利市立南小学校

### I 研究にのぞむ基本的態度

本年度は、現職教育として理科、体育に研究の中心をおき校内研修を通して実践することを基本におさえた。

- (1) 本校の学校課題「認め励ますことにより、ひとりひとりの意欲を育てる」ことを確認しながら、楽しさと充実した学習指導をめざす。
- (2) 実践授業を通して、指導者の資質の向上につとめる。
- (3) 研究の進め方は、学年を単位とし、必要に応じ低中高ブロック、全体でおこなう。
- (4) 授業研究は、学年協同で指導案を作成し、実施後反省改善を加え複数のクラスで実施する。

### II 楽しさをどうとらえるか（子どもにとって楽しい授業とは、）

1時間の授業が終って「ええっ、もう終り」「楽しかったなあ」「先生もっとやろうよ」という子どもの声が聞けるような授業を考え、子どもにとって楽しい授業の条件を次のようにとらえた。

- (1) 運動がうまくなり、進歩する楽しさ。
- (2) 運動を創り出していく楽しさ。
- (3) 友だちに教えたり、教えられたりして仲良く運動する楽しさ。
- (4) 友だちや先生に認められたりというよろこびがある楽しさ。
- (5) 精いっぱい運動する楽しさ。

以上のような基本的なとらえ方をして、その実現のために研究実践した。（実践事例 後記）

### III まとめにかえて

ひとりひとりに運動の楽しさをもたせるための授業（運動の楽しさがわかる授業）

#### ・教師の主体性、創造性（児童）

児童が主体的に学習する中で体力や技能の向上が高まり、能力に応じた運動課題をもってたがいに協力し、課題解決のよろこびが持てる。

#### ・個性や能力を重視した授業（児童の欲求が充足される）

じょうずな児童も不得手な児童も運動が楽しめるように、つまり、ひとりひとりの個性や能力に応じて運動が楽しめるようにしたい。（技能の進歩）

#### ・運動の特性にもとづく授業（特性にふれる楽しさ、よろこびを味わうことのできる授業）

学習のねらい（課題）がそれぞれの学習者（個人やグループ）の力に応じていて努力すれば、できる、勝てる、つくりだせるという希望が学習者にわいてくる。（学習者の創意工夫→自発学習）

# 体 育 科 学 習 指 導 案

昭和55年7月9日第3校時

5年1組 指導者 大野 順

## 1 単元名 サ ッ カ ー

### 2 単元の目標

- (1) チーム内の役割を決め、縦のパスを素早く攻撃ができるようにする。
- (2) チーム内における役割に応じた技能を養い、その責任を果たしながら協力して練習やゲームが計画的にできるようにする。
- (3) 簡単な規則を理解し、審判員の判定に従って公正にゲームをするとともに、最後まで最善をつくしてゲームをすることができるようにする。
- (4) 場所や用具の点検をし、安全に運動ができるようにする。

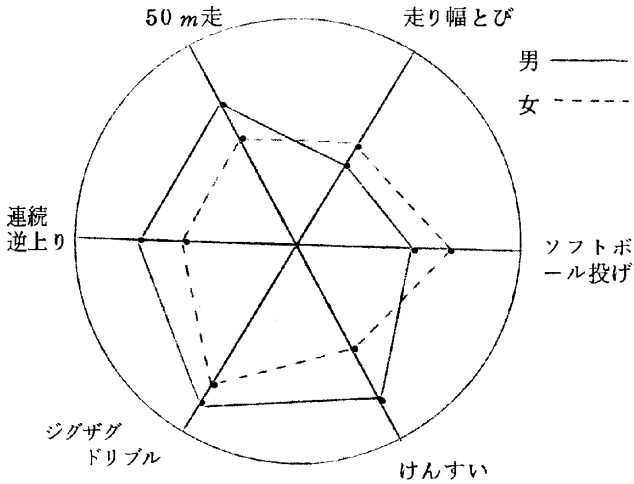
### 3 内 容

○ 運 動 の 技 能 や 方 法	態 度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○メンバーの役割を決め、パスを中心に速い攻撃ができるようにする。</li> <li>○攻める、守るの切りかえを速くしてゲームができる。</li> <li>○味方の動きに応じてパスをし、パスをしたらすぐにボールをもらえる位置に移動する。</li> <li>○ゴールに対して、距離や角度をかえてシュートできる。</li> <li>○簡単なルールが理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協力して根気強く練習する。</li> <li>○仲間の失敗を責めず励まし合ってプレイする。</li> <li>○規則を守り、楽しくゲームができる。</li> </ul>

### 4 指導計画

	時 間 配 当				指 導 内 容
	10	20	30	40	
	サ ッ カ ー				
1	サ ッ カ ー				<ul style="list-style-type: none"> <li>・グルーピング、役割分担、ゲームをし、グループの課題を設定し、練習計画を立てる。</li> </ul>
2					<ul style="list-style-type: none"> <li>・パス、ドリブルを中心に練習する。</li> </ul>
3					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをする。</li> </ul>
4					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを持った人からパスがもらえる位置に動くことを中心に練習する。</li> </ul>
⑤					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをする。</li> </ul>
6					<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー大会をする。</li> </ul>

## 5 児童の実態



スポーツテストの結果から、女子よりも男子の方が運動能力がすぐれているといえる。

また、ジグザグドリブルの結果が比較的良いことから巧緻性を必要とするボール運動には向いていると思われる。

ところが幅とびやボール投げなどの筋力を必要とする競技は低次の段階にあり、運動能力にアンバランスな面が見られる。

### ① スポーツテストの結果

題材	器 械			陸 上		水 泳	ボ ー ル	
	マ ッ ト	跳 び 箱	鉄 棒	短 距 離 リ レ ー	幅 と び		バスケット	サッカー
好 き	1人 (1.2%)	8人 (10.3%)	0人 (0%)	4人 (5.2%)	8人 (10.3%)	23人 (20.5%)	4人 (5.2%)	32人 (41%)
嫌 い	17人 (21.8%)	9人 (11.5%)	25人 (32.1%)	13人 (16.7%)	1人 (1.2%)	3人 (3.8%)	6人 (7.7%)	0人 (0%)

### ② 体育に対する実態調査

スポーツテストの結果からも言えることであるが、ボール運動は大変好んで行なうが、筋力を必要とする器械系が苦手である。

### ③ サッカーにおけるクラスの実態

- ・ ルールの知識や技能が身につけておらず、ゲームが中断することが多い。
- ・ 組織的な攻撃や防御ができず、個人プレーが多い。
- ・ 役割を忘れ、ゲームに熱中してボールに集まってしまう。
- ・ 基本的な練習を好まず、ゲームをしたがる。
- ・ 練習のしかたも思うようにできない

## 6 教材観

サッカーは、グループでパスをつなぎ、協力して相手の防御を突破して点数を競い合っている競技である。そこで、点数をとるよろこびを味わわせるために、組織的な攻撃や守備ができるような練習を中心にしながら、ゲームを通して技能を高めさせたい。

また、技能を高めさせるために、グループごとの課題に適した練習方法を例示し、その中から、グループごとになんらかを取りあげ、課題を解決するために協力して練習にとり組むようにさせたい。

## 7 本時の指導

(1) 題材 サッカー

(2) ねらい

- ・ボールをパスしたらすばやくパスをもらえる位置に動いて、攻撃することができる。
- ・チーム内で励まし合い、教え合って課題解決のための練習やゲームができる。
- ・ルールを守り、安全に気をつけて公正にプレイすることができる。

(3) 展開

指導目標	学習内容	時間	指導上の留意点	準備・評価
	<p>1. 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダッシュ</li> <li>・ドリブル</li> <li>・パス</li> <li>・キック</li> </ul> <p>2. 集合整列し、本時の学習内容を確認する。</p>	<p>(分)</p> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに精一杯運動させる。</li> <li>・チームの練習、ゲームにおける課題を確認させる。</li> </ul>	<p>ボール</p> <p>ボール</p>
	<p>パスをしたあと、ボールをもらえる位置にすばやく移動する。</p>	<p>5</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスをつなぎながら攻撃することができる。</li> <li>・ルールを守って安全にプレイできる。</li> </ul>	<p>3. サッカーの練習をする。</p> <p>(1) ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A対B (男対男) <ul style="list-style-type: none"> <li>課題</li> <li>パスをつなぎながら攻撃をする。</li> </ul> </li> <li>・ C対D (女対女) <ul style="list-style-type: none"> <li>課題</li> <li>ボールを持たずにプレイする。</li> </ul> </li> <li>・ E対F (男対女) <ul style="list-style-type: none"> <li>課題</li> <li>男子は攻撃、女子は守備を中心にプレイする。</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10分間通してゲームをさせる。</li> <li>・ 審判として1チームを役割を分担させる。</li> <li>・ 審判の判定に従い、フェアプレーを心がけさせる。</li> <li>・ 攻撃が組織的にできるように、パスをしたらすばやくパスをもらえる位置に移動させる。</li> <li>・ 攻める、守るの切りかえを素早くさせる。</li> <li>・ 汗をかいたあと始末をきちんとさせる。</li> </ul>	<p>笛、ゼッケン、ストップウォッチ、ラインズマン、フラッグ</p> <p>パスをしたら、すばやくボールをもらえる位置に移動できたか、審判チームから聞く。</p> <p>安全に心掛け、公正にプレーで</p>

◦ゲームを楽しくするために個人プレーを少なくさせる。

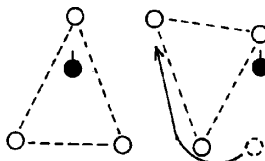
きたか、審判チームから聞く。

◦課題を解決するために協力して練習する。

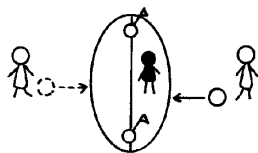
(2)ゲームのための練習をする。

パスをつなぎながら攻撃するための練習をする。

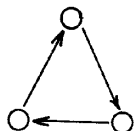
◦3対1のボールとり



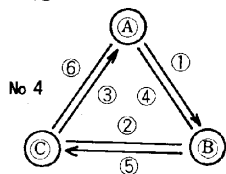
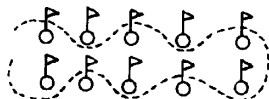
◦2対1のシュート



◦三角パス



◦ドリブル・トラッピング



◦常に敵を三角形の外に出すように動きを工夫させる。

協力し教え合っ  
て練習できたか。  
グループ間指導  
から見る。

◦左右から交互にシュートさせ、入ったら1点、はずれたらキーパーと交代させる。

◦パスをもらう人の立場になって、正確にパスをさせる。

◦自分の足もとからボールを1m以上離さないで練習させる。

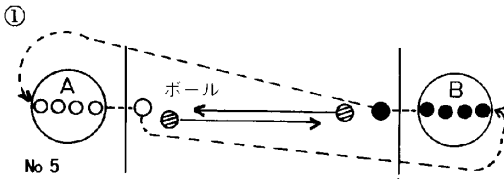
◦AがBへ、BはボールをうけCにパス、Cはボールを持ってAへ、AはボールをうけてBへパス、Bがボールを持ってCへ……とローテーションさせる。

(以上の中から、グループの課題に応じて2種目練習させる。)

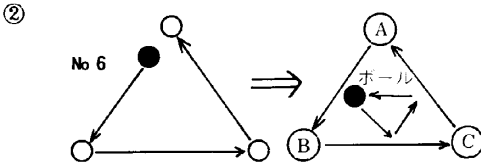
	<p>4.本時のまとめをする。</p> <p>5.整理運動をする。</p> <p>6.あとかたづけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦成果を発表し合い、次時のゲームに最善を尽くそうとする意欲や課題をもたせる。</li> <li>◦のびのびと大きくさせる。</li> <li>◦協力して行なわせる。</li> </ul>
--	---	--

## サッカー基本練習

### (1) パス

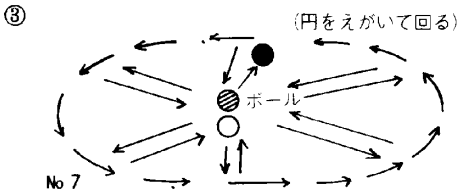


AのチームはBへパス。パスをしたらBの後ろにつく。Bは、Aのパスを受けたらAへパス、パスをしたらAのうしろにつく。交互に正確にパスの練習をする。



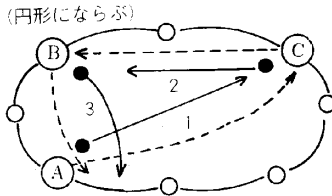
三角形になり、ボールを止めずにパスの練習をする。

慣れてきたら三人が動きながらパスをする。



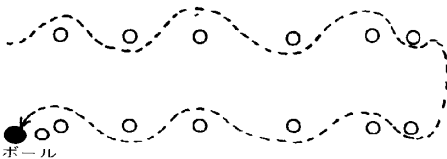
パスをわたす人を中心にし、パスを受ける人は円をえがきながら中心にパスを返す。中心の人は、走る人の前へ前へとパスをくり返す。

### ④ 円陣パス



円陣キックをするだけでなく、AはBへパス、パスしたらBの位置へ、BはCへパスをし、パスしたらCの位置へ移動する。パスをする方は、パスをしようとする相手の名を呼び呼ばれたら必ず前に出てパスを受ける。

### (2) ドリブル

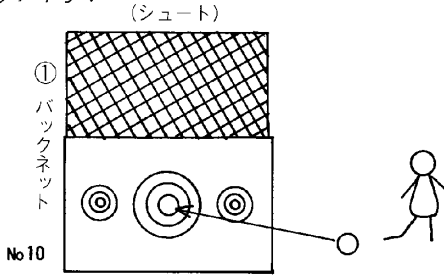


自分の体から絶対に1m以上離さない様にする。

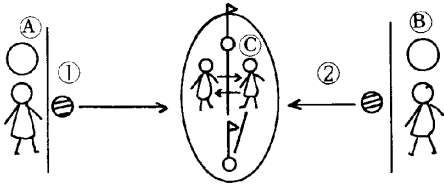
慣れてきたらフェイントを入れて練習する。

(3) シュート

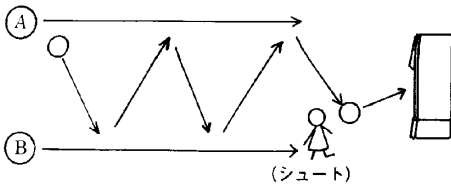
① バックネット



②

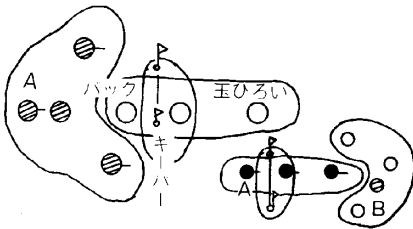


③

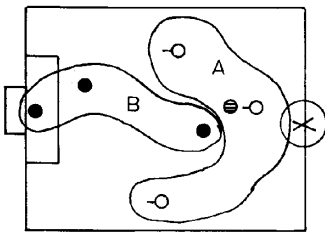


(4) フォーメーション I

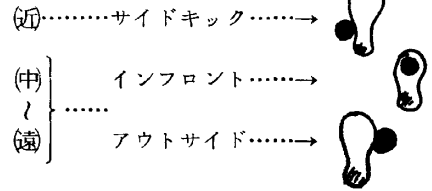
①



② 5~6人1チーム



的当ての要領で、定められた目標にボールを当てる。



Aがシュートをする。入ったらそのまま、とられたり、はずれたりしたら◎と交代する。この要領で、A、B、交互にシュートをし、3人で点数を競う。

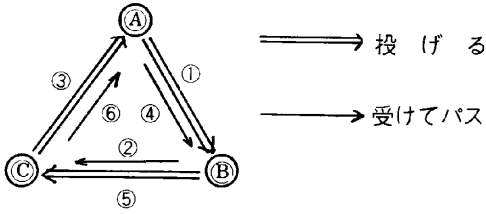
AはBへパスをし、そのまま、前進する。BはAのパスを受け再びAへパス。何回かくり返したあと、いずれかがゴールの前でシュートをする。

A、B 3人ずつ1チームとなり、Aが攻撃を始める。パスをつなぎながらシュートのチャンスをつくりシュート。Aの攻撃が終わったらBが攻撃をし、点数を競う。1回ずつ交互に攻める、守るをくり返す。

チーム内で役割を分担したら、オフェンス(A)、ディフェンス(B)にわかれ、攻撃と守備の練習をする。

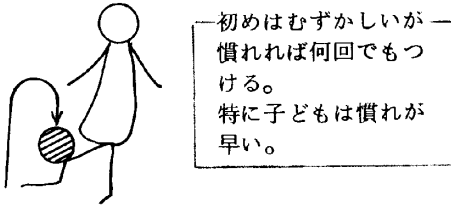
Aはパスをつなぎながらせめる。Bは、ボールをもっている者とゴールの対角線上で守る。

(5) トラッピング

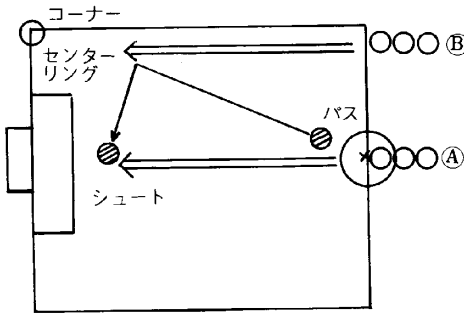


(足、太もも、腹、胸、頭で練習する)

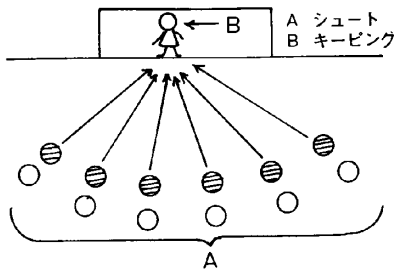
(6) ボールリフティング(コントロール)



(7) フォーメーション II



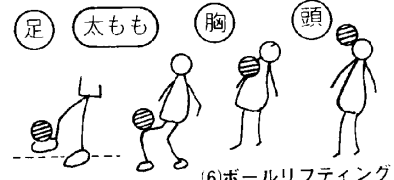
(8) ゴールキーピング



Aはボールを持ってBへ投げ、Bはそれを止めてCへパス、Cはボールを受け、手に持ってAへ投げる。Aはそれを止めてBへパス、Bはそれを受けCへ投げる。Cが止めてAへパス、ロータリー式にくり返す。

足の甲、太もも、頭、胸などを使ってボールをつく。

この時、足首が上を向かない様注意する。



オープン攻撃をするためにセンターリングの練習をする。(全速でプレー。)

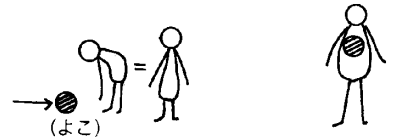
Aがコーナーをめがけてパス。

Bがゴール前にパス。

Aが走り込んでシュート。

Aがシュート

Bはそれをキャッチ、又は、パンチングでゴール外へはじく。キーパーは足をそろえてキャッチし、自分の胸に持つ。





## 8 授業実践の結果

本指導案は、校庭で行うことを前提とした計画であるが、雨天後の悪条件のため、急きょ体育館で実践することになったものである。以後実践の結果を順を追って説明してみよう。

### (1) 準備運動は次のように行った。(5分)

ア. ダッシュ……これは球技運動に重要な敏捷性の運動である。変化をつけて次のように行った。

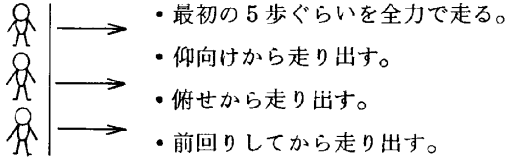


図 1 立ったまま、回れ右、左などして走り出す。

イ. ドリブル……これはボールコントロールに結びつくものである。足からできるだけボールをはなさず小さく回る。慣れてきたらスピードをあげる方法を取り入れ、図2のように旗の周りを回ってくる方法である。

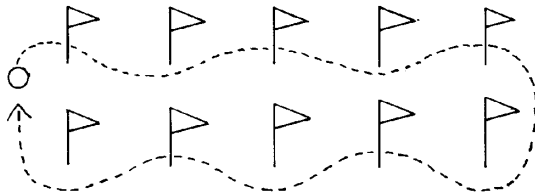
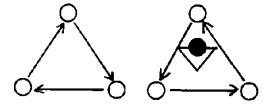


図 2

図 3

図 4



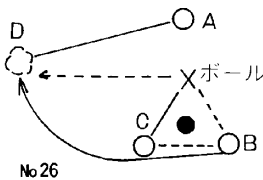
ウ. パス……これは、ボールを正確にける。動きながらボールをもらう練習にも発展しゲームの基本である。方法には図3、図4に示すような方法を取り入れてみました。特に図4のように相手の走っている前にパスを出し、三角形に動きながら、前へ前へとキックし、ボールを止めないようにさせることである。

### (2) 本時のめあての確認 (5分)

「ボールをパスしたあと、自分がボールをもらえる位置にすばやく移動する」を共通課題とし、解決のための練習方法を例示し、チームごとに、より効果的なものを選ばせた。

その主な例をあげると次の様である。

#### <例1> ボールとり



3人対1人で行うもの

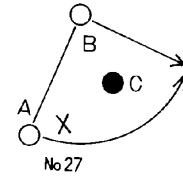
敵●印は常に3人の3角パスの外になるように、ボールを保持しない者が移動しパスをすることである。例えばBがD地点に移動することにより、敵を三角形の外に出すものである。

**A 対 B** ……パスをつなぎながら攻撃する  
 (男) (男) という同じ課題を持つチーム  
 のゲーム

**C 対 D** ……ボールを持たずかべパスを中  
 (女) (女) 心に攻める練習をとり入れた  
 ゲーム

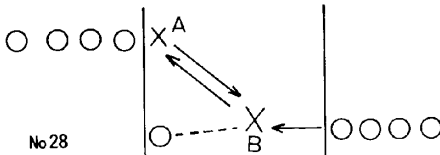
**E 対 F** …… 男子攻撃中心、女子守備中  
 (男) (女) 心のチームによるゲーム

かべパス



**A**が**C**をぬくために**B**にパス、  
 パスと同時に分速で**C**をぬきこ  
 す。**B**はパスをもらった角度で  
 おり返す。

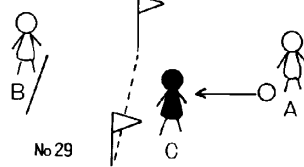
<例2> 動きながらのパス



3~4人が対列に位置し、AからBへド  
 リブル、そしてパス、Bは受けとめてA  
 側の次の者へパスをするという方法であ  
 る。

<例3> パスをしながらシュート

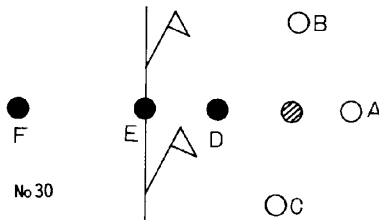
2対1の場合



A、Bが交互にシュートをする。シュー  
 トがはずれたり、Cにとられたりしたら  
 Cと交代する。

シュートが入ったら得点として続ける。

3対3の場合



ABCが攻め、Dはディフェンス、Eは  
 キューパー、Fはボール拾い。

ABCはパスをつなぎながら、すきをみ  
 てシュート、1回ずつ交代に行い、入っ  
 たら点数で競う練習方法である。

前述の練習を各チームごとに行ったが、そのための体育館内を次のように設定した。

(次頁参照)

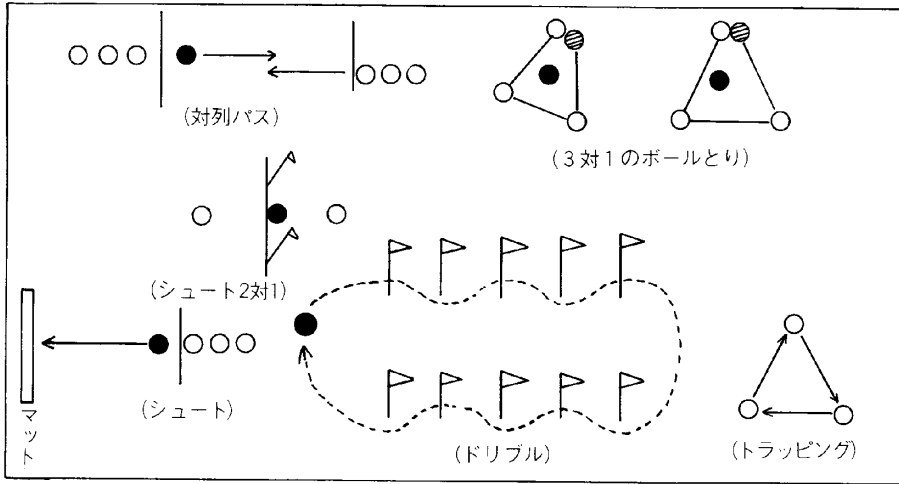
(3) 部分練習(20分)

6つのチームを上記の部分練習に位置づけ時間を決め行った。チームの練習はもちろんそれぞ  
 れの課題に即して行ったものである。

(4) ゲーム(10分)

各チームの部分練習後、ゲームを実施した。屋内のため次のように行った。

(体育館内の配置図)



## 9 考 察

授業の結果を中心に考察してみたい。

まず第一は体育館におけるサッカー指導についてである。児童の活動面から考えたとき、狭い、固い床、そして滑り易いという悪条件が心配になった。しかし、実践の結果では、教師側の場の設定の工夫などによって、校庭に近い運動が可能になるようである。例えば部分練習がそれである。40人からの児童数ではやや狭さを感じるものの、体育館内の用具の配置など工夫することによって可能ということである。内容によっては、児童全体の掌握がしやすく、効果的な面さえあるようだ。

次に、児童が楽しく部分練習にとり組んでいる姿は、各チームごとに課題意識をもっていたことにもよるだろう。また、授業の後半にゲームを取り入れていることも大きな要因となるようだ。それは、次の結果からも理解できそうである。

試みに、5年生の各学級がゲーム中心の授業展開をしたり、基本練習に中心をおいたり、という形態をとったとき、本時のように、課題意識に基づく部分練習とゲームを同一時間内に実践する方法が最も効果的だった。また、部分練習をゲーム化すると、さらに学習意欲を高める。

児童が活発に参加した理由として考えられるもう一つは、児童の役割分担が明確になっていることや、教師も児童と共に参加していることにもよるようだ。その中で課題解決のための練習方法やゲーム内容について数多く体験したり、理解したりしておくことである。

### — 今後の課題 —

今後の課題としては、屋内用のボールや用具、また安全指導について具体策を考える必要がある。また、児童の活動をどのような観点や方法によって評価することが、効果的かという問題もあるようだ。さらには、サッカーの日常化ということも考えてみる必要がある。